

夕張市美術館の今後の在り方についての方針

《 絵画のある街夕張をめざして 》

はじめに

道内でも古い歴史を持つ「夕張市美術館」が雪により倒壊したことは、不幸な出来事であり、多くの美術愛好家や住民の方々に不安とご心配をかけることとなった。

美術館は作品を展示公開する場としてだけではなく、市民の創作活動の支援や作品発表の場として、私たちの生活に潤いを与えてきた。

このたびの出来事は、建物としての“美術館”を失っただけではなく、先人が営々と築き上げてきた本市の文化芸術の歴史をも断ち切る恐れがあったものとする。

美術館の収蔵作品の多くは、芸術を愛し、夕張の地に根を張る労働者や、本市に縁のある作家の手によるものであるが、数点を除き無傷で安全な施設に移すことができたことは不幸中の幸いであった。

これらの作品を市内外の人々に公開することにより有効活用し、市の文化芸術活動の方向性を明らかにするとともに、美術作品とともに歩む夕張の新たな歴史の第一歩になるようこの方針を定めるものである。

1 方針の目指す姿

美術館は芸術作品とのふれあいの場にとどまらず、人々の交流の場でもある。

美術館の倒壊を否定的側面のみでとらえず、待ちの姿勢とも言える美術館の方向性を転換することで、これまで以上に美術作品が多くの人々の目に触れることにより、市民生活に「癒しと安らぎ、潤い」を提供したい。

また、美術館の持つ機能が市内の各所で花開き作品が永く市民に愛されることにより、優れた文化と芸術の新たな担い手が生まれることを目指すものである。

2 美術館の再建について

新たな美術館を建設することは、本市の置かれている厳しい財政状況や、管理運営に関わるコスト、更には学芸員の配置などを総合的に勘案すると困難と判断する。

しかし、収蔵作品の多くは本市の歴史を語る貴重な財産であり、夕張にあってこそその価値が発揮される。

先人たちの優れた作品を散逸させることなく、未来に歴史をつなぐためにも、多くの市民に公開する機能は残すべきである。

3 収蔵作品の管理と活用について

(1) 収蔵作品の管理

収蔵作品は、現在比較的環境の整った市内公共施設に保管されており、環境面や作品移動の利便性などを総合的に考え、当面は同所で保管管理するが、将来的に市庁舎等に空きスペースができるなど、状況に変化があった場合には保管場所の移動も検討する。

(2) 収蔵作品の活用

①当面の対応

美術作品は人の目に触れてこそ生きるものであり、多くの人々の目に触れる場を設ける必要があるが、人の流れやセキュリティーの課題を考慮し、平成 25 年度の早い時期に、次の場所において各 10 点程度を定期的に、作品を替えながら無料で展示公開する。

- ・ふるさとギャラリーあずましい（市庁舎内 2 階展示スペース）
- ・ゆうばり小学校（図書室・ロビー等）
- ・夕張中学校（ロビー・廊下等）
- ・清水沢地区公民館（和室・階段・2 階ロビー等）
- ・文化スポーツセンター（ロビー・階段等）

②中長期的対応

上記展示場所の中心施設として、ふるさとギャラリー「あずましい」の展示スペースの拡充や、保管・管理場所の確保などを行い、更に充実した拠点施設への転換を図る。

また、公共施設以外でも、人が集まる民間施設での展示について、セキュリティーや展示環境の課題を順次整理しながら積極的にとり進める。

収蔵作品の市外の美術館等への貸出についても検討する。

上記の事業を確実に実施するため、必要最低限の設備の整備と、美術品の管理・展示等の専門的知識を持った職員（非常勤）を雇用する。

4 芸術文化振興のための発表・展示機会の提供について

市民生活にとって文化芸術の持つ役割は極めて大きく、その振興は地域の発展の力にもなる。美術館を失ったことで、文化団体が作品の展覧会等を行える公共施設は、清水沢地区公民館と市民研修センターに限られるが、利用料金は直営時代の美術館市民ギャラリーに比べ約 18 倍、指定管理時に比べても約 4 倍となる。現状では文化団体が発表機会を継続的に持ち続けることが極めて困難となり、市民の創作活動が衰退していくことも懸念される。

展覧会等と会議・会合等では使用する期間も目的も全く異なることから、両施設の展覧会独自の料金設定について実施に向けた検討を行う。